

ロシア・東欧学会 *Newsletter* No. 3

The Japanese Association for Russian and East European Studies

ロシア・東欧学会年報 「ロシア・東欧研究」の 投稿申込期限 12月15日

『ロシア・東欧学会年報』は、2001年10月6日に行われた2001年度第2回理事会において『ロシア・東欧学会年報「ロシア・東欧研究」』と改題されることが決定され、同日開催された総会で承認されました。それとともに、年報の編集方針も変わり、今後は、特集論文として当該年度の大会の共通論題報告を掲載するほかは、会員の投稿論文を審査のうえ掲載することになりました。

次号の『ロシア・東欧学会年報「ロシア・東欧研究」』2001年版第30号への投稿希望者は、2001年12月15日までに、氏名、所属、職名（大学院生の場合は課程、学年など）、住所、電話、Fax、e-mailアドレス、論文・書評などの別、予定のタイトル・枚数を書き、年報編集委員会まで申し込んで下さい。

年報編集委員会の連絡先は以下の通りです。

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
大東文化大学国際関係学部 松井弘明
Tel: 049-661-1522; Fax: 049-331-1524
e-mail: macchi007@hotmail.com

2001年度大会10月6・7日に 愛媛大学農学部で開催さる

ロシア・東欧学会2001年度大会が、2001年10月6日（土）・7日（日）、愛媛大学農学部において盛会のうちに開催されました。「21世紀のロシア・東欧：グローバリゼーションと地域変容」と題さ

れた共通論題をはじめとして、各自由論題報告にも、のべ100名以上の会員が参加し、熱心な議論が行われました。また8日（月）には、松山市内、伝統的な街並みが保存されている内子町、ノーベル文学賞受賞者の大江健三郎氏の出身地・大瀬などをめぐるエクスカージョンが実施されました。大会実施委員長・細川隆雄会員および同大・河原祐馬会員に深く感謝したいと思います。

理事会の議事から

2001年度第1回理事会

2001年7月7日（土）、上智大学で2001年度第1回理事会が開催されました。理事会では、入会希望者（7名）の審査および承認、2001年度大会自由論題報告者の決定および討論者の提案、2001年度大会のエクスカージョンについての説明、年報編集方針の変更と誌名改題の承認、2000年度決算報告書および2001年度予算案の承認、住所不明会員・長期会費滞納者についての報告、事務局会務報告などが行われました。

本理事会で承認された新入会員の氏名・所属は以下のとおりです（申込順・敬称略）。辻本政雄（早稲田大学大学院）、福田方人（創価大学大学院）、中林啓修（慶應義塾大学大学院）、市川顕（慶應義塾大学大学院）、浜由樹子（津田塾大学大学院）、上垣彰（西南学院大学）、齋藤厚（慶應義塾大学大学院）。

年報編集方針の変更により、これまでの、大会における共通論題および自由論題の報告にもとづく論文だけが掲載されていた形式から、共通論題報告にもとづく論文と、審査により採用された投稿論文とが掲載されるものになりました。それとともに、誌名が『ロシア・東欧学会年報』から『ロシア・東欧学会年報「ロシア・東

欧研究』に改題されることが承認されました。また、この結果、新たに投稿規程と詳細な執筆要領がつけられることになり、その準備作業が年報編集委員会に委ねられることになりました。新たな投稿規程・執筆要領は、2001年度第2回理事会の項にあるように、第2回理事会に提出されて承認をうけたあと、総会で承認されました。この投稿規程・執筆要領は、全文を本号に掲載しているのでご参照ください。

2001年度第2回理事会

2001年10月6日(土)、ロシア・東欧学会第30回大会の場で2001年度第2回理事会が開催されました。理事会では、会計監事による2000年度決算報告書の監査が無事終了したことの報告、前回理事会以降の入会希望者(3名)の審査および承認、1999年度退会者(3名)・2000年度退会者(7名)・2001年9月30日現在までの2001年度退会者(5名)についての報告、年報の編集方針変更とともに新しい投稿規程・執筆要領の承認、長期会費滞納者に対する措置についての承認、会則の補足および修正についての提案と承認、名誉会員選任規程の提案と承認、2002年度大会開催校の決定などが行われました。

本理事会で承認された新入会員の氏名・所属は以下のとおりです(申込順・敬称略)。池本修一(日本大学)、天野尚樹(北海道大学大学院)、加藤久子(一橋大学大学院)。

本理事会で報告された各年度の退会者は以下のとおりです(五十音順・敬称略)。1999年度、金田辰夫、熊田原隆史、平井友義。2000年度、臼田昭三郎、角伸明、片岡哲史、加藤雅彦、吉川元、鈴木重靖、高橋英二。2001年度(9月30日まで)、鈴木勇、豊川浩一、野間俊威、中西治、三宅正樹。

なお、名誉会員選任規程が総会で承認された場合、総会に名誉会員として推薦する会員2名が決定されました。

2002年度大会は10月5・6日 上智大学で

2001年度第2回理事会において、2002年度大会

は、2002年10月5日(土)・6日(日)、上智大学で開催されることが決定されました。

2001年度総会開催

2001年10月6日(土)、ロシア・東欧学会第30回大会の場で、2001年度ロシア・東欧学会総会が開催されました。総会の議事は、総会の冒頭で議長に選出された村上隆会員の司会進行によって進められました。総会では、2000年度決算報告・2001年度予算案の承認、前大会以降の新入会員の紹介、年報編集方針の変更と新しい投稿規程・執筆要領の承認、会則の一部修正の承認、名誉会員選任規程の承認、名誉会員の提案と承認、日本学術会議関連事項についての報告などが行われました。

会則の補足および修正の内容は、会則が退会についての規定を欠いているので、会則第4条に、「退会しようとするものは、退会届を事務局に提出するものとする」を追加すること、ならびに会則第12条に、「理事会は会誌編集規程を定める」とあるが、当学会には「会誌編集規程」はなく、そのかわりに「会誌編集委員会規程」があるので、会則第12条の「会誌編集規程」という部分を「会誌編集委員会規程」に変更すること、の2点です。

名誉会員選任規程は、会則第16条に、「総会は(…)名誉会員とすることができる」とありますが、名誉会員についての規程がないため、あらたに定めることにしたものであり、以下のようなものです。

名誉会員選任規程

1. 理事会は、代表理事の発議を受け、多年にわたり学会の発展にとくに貢献のあった満75歳以上の会員を名誉会員として総会に推薦し、承認を求めることができる。
2. 名誉会員に選任された会員は、学会費納入の義務を免除され、理事会に随時出席して意見を述べるができる。

総会によるこの規程の承認を受けて、名誉会員としてあらたに加藤寛・五井一雄両会員が推薦され、総会で承認されました。

ロシア・東欧学会年報 「ロシア・東欧研究」 投稿規程と執筆要領

2001年10月6日に行われた2001年度第2回理事会で決定され、同日開催された総会で承認された『ロシア・東欧学会年報「ロシア・東欧研究」』の新しい投稿規程および執筆要領は以下のとおりです。2001年版第30号への投稿は以下の投稿規程・執筆要領に従って執筆して下さい。なお、『ロシア・東欧学会年報』2000年版29号掲載の「論文執筆要領」は廃止されます。

投稿規程

- 1. 投稿資格** 原則として、当学会会員とする。
- 2. 原稿内容** ロシア・東欧・旧ソ連地域に関する学術論文(以下論文)、研究ノート、書評、資料紹介等とし、未発表のものに限る。
- 3. 原稿枚数** 原則として、論文は400字詰め原稿用紙40~45枚、研究ノートは20枚以内、書評・資料紹介等は10枚以内とする。この枚数には図表、注、参考文献も含まれるものとする。欧文の場合もこれに準ずる(論文の場合は6,500語程度)。
- 4. 使用言語** 審査および印刷の関係上、使用言語は日本語、英語、ロシア語のいずれかとする。
- 5. 執筆要領** 別に定める執筆要領にしたがうこととする。
- 6. 原稿審査** 提出された原稿は、特集論文を除き、審査の上掲載を決定する。論文は、1編につき編集委員会が依頼する3名の会員により審査を行う。その他の原稿は編集委員会において審査を行う。尚、審査の過程において、編集委員会より、原稿の手直しを求めることがある。
- 7. 投稿方法** 投稿希望者は、年報発行前年の12月15日までに、氏名、所属、職名(大学院生の場合は課程、学年など)、住所、電話、Fax、e-mailアドレス、論文・書評などの別、予定のタイトル・枚数を書き、編集委員会まで申し込むこと(宛先は年報裏表紙参照のこと)。

執筆要領

- 1. 原稿用紙** 原稿用紙はA4用紙を使用し、1ページあたり40字×30行、横書きとする。欧文の場合はA4用紙にダブル・スペースで印字する。
- 2. 表題・執筆者名** 表題、執筆者名は本文とは別の用紙に記し、執筆者の所属(大学の場合は学部・研究科等)、職名を付す。大学院生の場合は課程、学年等を明記する。表題および執筆者の氏名・所属・職名の英語表記を併記する。
- 3. 図・表** 図、表は本文原稿とは別にし、1枚の用紙に1つだけとし、図1、表1という形でそれぞれの図表に一連番号をつける。また本文中に、それら図表の挿入希望箇所を「表1入る」という形で指示する(ただし、組みあがりの関係で必ずしも希望どおりにならない場合もある)。
- 4. 章立て** 見出しには第、章、節等の文字は使用せず、見出し番号は以下に統一する。

はじめに(序、序論など。またなくてもよい)

1.
 - (1)
 - (2)
- 2.

おわりに(結び、結論など。またなくてもよい)

- 5. 注** 注は本文のおわりにまとめ、(1)、(2)の形で通し番号をつける。注の形式はおおむね次のとおりとする(これとは別の形式による注記を希望する場合は編集委員会に相談すること)。

(1) **日本語文献** 単行本：著(編)者名『書名』(シリーズ名)出版社、出版年、ページ。

(例) 加藤哲郎『東欧革命と社会主義』花伝社、1990年、119ページ。

論文：執筆者名「論文名」『雑誌名』巻、号、出版年月日、ページ。または執筆者名「論文名」編者名『書名』出版社、出版年、ページ。

(例) 江畑謙介「ロシア戦闘機ミグの凋落とスホイの台頭」『世界週報』第78巻第30号、1997

年 8 月 19-26 日, 42 ページ .

(例) 家田修「ハンガリーの人民民主主義における社会経済と統治機構」石井 修編『1940 年代ヨーロッパの政治と冷戦』ミネルヴァ書房, 1992 年, 287 ページ .

新聞: 『新聞名』年月日, (夕刊の場合のみ明記)

(例) 『日本経済新聞』2000 年 11 月 3 日 .

(例) 『日本経済新聞』2001 年 11 月 3 日夕刊 .

(2) 外国語文献 著者名は, 原則として姓を先, 名を後にし, 共著の場合は 2 人目から倒置しない . キリル文字は使用できるが, キリル文字をローマ字に翻字する場合の翻字規則は (4) のキリル文字翻字規則による .

単行本: 著 (編) 者, 書名 (イタリック, または下線を引く, 以下書名は同様), 出版地, 出版社, 出版年, ページ .

(例) Baev, Pavel K., *The Russian Army in a Time of Troubles*, London: SAGE Publications, 1996, p. 105.

(例) Горбачев, Михаил, Перестройка и новое мышление для нашей страны и для всего мира. Москва, Издательство политической литературы, 1987, стр. 125.

(例) Gorbachev, Mikhail, Perestroika i novoe myshlenie dlia nashei strany i dlia vsego mira. Moskva: Izdatel'stvo politicheskoi literatury, 1987, p. 125.

論文: 著者名, “論文名”, 雑誌名, 巻, 号, 出版年, ページ .

(例) Pribylovsky, Vladimir, “What Awaits Russia?” *Transition*, Vol.1, No.10, 23 June 1995, p.6.

(例) Alexander, Arthur J., “Modeling Soviet Defense Decisionmaking,” in Valenta, Jiri and William Potter, eds., *Soviet Decisionmaking for National Security*, London: George Allen & Unwin, 1984, pp.10-13.

(例) Зотова, Зоя, “Оптимизация взаимоотношений между центром и регионом” Полис, 1998, No. 3 (45), стр. 204-207.

(例) Zotova, Zoia, “Optimizatsiia vzaimootnoshenii mezhdru tsentrom i regionami,” Polis, 1998, No.3 (45), pp. 204 - 207.

新聞: 新聞名, 年月日, ページ .

(例) *The New York Times*, 8 November 1992, p. 2.

(例) Российская газета, 9 августа 2000 года, стр. 1-2.

(例) Rossiiskaia gazeta, 9 August 2000, pp. 1-2.

(3) インターネット情報の引用 アドレスとサイト名を明記すること . またアクセスの日時も明記することが望ましい .

(4) キリル文字翻字規則

A(A), Б(B), В(V), Г(G), Д(D), Е(E), Ё(E), Ж(Zh), З(Z), И(I), Й(I), К(K), Л(L), М(M), Н(N), О(O), П(P), Р(R), С(S), Т(T), У(U), Ф(F), Х(Kh), Ц(Ts), Ч(Ch), Ш(Sh), Щ(Shch), Ъ(’), Ы(Y), Ь(’), Э(E), Ю(Iu), Я(Ia)

6 . 英文要旨 論文には 500 語程度の英文アブストラクト(要旨)と 3~5 語/句の英語キーワードを添付する . 英文アブストラクトは, 執筆者の責任において, ネイティブ・チェックを受けるものとする . 論文以外の原稿は, 英文アブストラクトは不要とする .

7 . 原稿提出方法 原稿はワードプロセッサにより作成し, 特集論文執筆者は原稿を 2 部, その他の執筆者は 4 部を, テキストファイル形式(ワード, エクセルも可)で保存したフロッピーディスクとともに編集委員会に提出すること .

8 . 校正 執筆者による校正は 2 校までとする .

9 . 原稿提出期日と刊行期日 原稿提出期日は, 4 月末日とする . なお, 提出された原稿等は一切返却しないので, 必ず写しを取っておくこと . 刊行期日は学会大会開催の月とする .

ロシア・東欧学会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1
上智大学外国語学部ロシア語学科 (上野俊彦)
Tel.: 03-3238-3978; Fax: 03-3238-3087
e-mail: t-ueno@hoffman.cc.sophia.ac.jp